

# 単体情報

## ● 経営指標

### 主要な経営指標等の推移

	平成24年度 中間会計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	平成25年度 中間会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	平成26年度 中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	平成24年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	平成25年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
経常収益	6,307 百万円	6,355	6,633	12,504	12,691
経常利益	362 百万円	797	903	1,094	1,728
中間純利益	232 百万円	418	548	—	—
当期純利益	— 百万円	—	—	603	811
資本金	8,000 百万円	8,000	8,000	8,000	8,000
発行済株式総数	62,490 千株	62,490	62,490	62,490	62,490
純資産額	28,213 百万円	32,119	33,793	31,704	32,205
総資産額	668,204 百万円	687,402	715,569	667,318	709,188
預金残高	600,525 百万円	616,507	638,414	598,786	616,522
貸出金残高	390,354 百万円	401,350	412,608	413,583	422,218
有価証券残高	180,404 百万円	239,260	255,421	208,592	238,945
1株当たり中間純利益金額	3.73 円	6.72	8.79	—	—
1株当たり当期純利益金額	— 円	—	—	9.68	13.02
潜在株式調整後1株当たり 中間純利益金額	3.72 円	6.67	8.71	—	—
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	— 円	—	—	9.63	12.92
自己資本比率	4.21 %	4.65	4.70	4.74	4.52
単体自己資本比率 (国内基準)	8.56 %	8.29	8.12	8.20	7.75
従業員数	654 人	662	683	635	651

- (注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。  
 2. 自己資本比率は、(中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末新株予約権を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。  
 3. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。なお、平成26年3月末から新しい自己資本比率規制(バーゼルⅢ)が適用されたことにより、平成25年度及び平成26年度中間会計期間はバーゼルⅢ基準で算出しております。

### 利益率

総資産経常利益率は、経常利益が前中間期7億97百万円から当中間期9億3百万円と1億6百万円増加しましたので、前中間期0.23%から当中間期0.25%と0.02ポイント上昇しました。資本経常利益率は、経常利益の増加により、前中間期5.57%から当中間期6.18%と0.61ポイント上昇しました。

また、総資産中間純利益率は、中間純利益が前中間期4億18百万円から当中間期5億48百万円と1億30百万円増加しましたので、前中間期0.12%から当中間期0.15%と0.03ポイント上昇し、資本中間純利益率は、前中間期2.93%から当中間期3.75%と0.82ポイント上昇しました。

(単位：%)

	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)	当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)
総資産経常利益率	0.23	0.25
資本経常利益率	5.57	6.18
総資産中間純利益率	0.12	0.15
資本中間純利益率	2.93	3.75

(注) 1. 総資産経常(中間純)利益率 =  $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times 100 \times \frac{365\text{日}}{183\text{日}}$

2. 資本経常(中間純)利益率 =  $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{資本(純資産)勘定平均残高}} \times 100 \times \frac{365\text{日}}{183\text{日}}$

利鞘

(単位：%)

	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)			当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用利回り	1.35	1.33	1.41	1.34	1.17	1.38
資金調達原価	1.48	0.43	1.49	1.44	0.49	1.46
総資金利鞘	△0.13	0.90	△0.08	△0.10	0.68	△0.08

預貸率・預証率

(単位：%)

		前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)		当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)	
		中間期末	期中平均	中間期末	期中平均
預貸率	国内業務部門	64.25	65.07	63.92	64.07
	国際業務部門	0.00	0.00	0.00	0.00
合	計	64.11	64.93	63.67	63.86
預証率	国内業務部門	34.17	31.78	35.81	34.97
	国際業務部門	1,903.45	2,169.91	957.37	1,154.62
合	計	38.41	36.40	39.41	38.68

(注) 預金には、譲渡性預金を含んでおります。

(自己資本比率の状況)

(参考)

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第19号）に定められた算式に基づき算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

単体自己資本比率（国内基準）

(単位：億円、%)

	平成26年9月30日
1. 自己資本比率（2/3）	8.12
2. 単体における自己資本の額	289
3. リスク・アセットの額	3,557
4. 単体総所要自己資本額	142

## ● 中間財務諸表

1. 当行の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
2. 中間財務諸表は金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けております。
3. 中間財務諸表その他の事項の金額については、百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 中間貸借対照表 (資産の部)

(単位：百万円)

科 目	期 別	前中間会計期間末 (平成25年9月30日)	当中間会計期間末 (平成26年9月30日)
現金預け金		9,860	20,102
コールローン		16,300	9,800
買入金銭債権		334	374
商品有価証券		167	268
有価証券		239,260	255,421
貸出金		401,350	412,608
外国為替		620	513
その他資産		3,008	971
その他の資産		3,008	971
有形固定資産		9,969	9,844
無形固定資産		763	219
前払年金費用		—	144
繰延税金資産		288	—
支払承諾見返		8,760	8,446
貸倒引当金		△3,281	△3,146
資産の部合計		687,402	715,569

(負債及び純資産の部)

(単位：百万円)

科 目	期 別	前中間会計期間末 (平成25年9月30日)	当中間会計期間末 (平成26年9月30日)
(負債の部)			
預 金		616,507	638,414
譲 渡 性 預 金		6,368	9,576
コ ー ル マ ネ ー		15,000	5,000
借 用 金		2,140	13,900
外 国 為 替		—	1
そ の 他 負 債		3,239	2,725
未払法人税等		304	179
リ ー ス 債 務		532	434
資 産 除 去 債 務		70	70
そ の 他 の 負 債		2,332	2,041
退 職 給 付 引 当 金		1,662	1,351
偶 発 損 失 引 当 金		192	153
繰 延 税 金 負 債		—	793
再評価に係る繰延税金負債		1,413	1,413
支 払 承 諾		8,760	8,446
負 債 の 部 合 計		655,283	681,775
(純資産の部)			
資 本 金		8,000	8,000
資 本 剰 余 金		5,759	5,759
資 本 準 備 金		5,759	5,759
利 益 剰 余 金		11,908	12,788
利 益 準 備 金		2,724	2,724
そ の 他 利 益 剰 余 金		9,184	10,064
別 途 積 立 金		7,400	7,400
繰 越 利 益 剰 余 金		1,784	2,664
自 己 株 式		△78	△21
株 主 資 本 合 計		25,589	26,525
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		4,298	5,021
土 地 再 評 価 差 額 金		2,116	2,116
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		6,414	7,138
新 株 予 約 権		114	129
純 資 産 の 部 合 計		32,119	33,793
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計		687,402	715,569

中間損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)	当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)
経 常 収 益		6,355	6,633
資 金 運 用 収 益		4,606	4,643
(うち貸出金利息)		(3,825)	(3,666)
(うち有価証券利息配当金)		(746)	(955)
役 務 取 引 等 収 益		839	852
そ の 他 業 務 収 益		660	880
そ の 他 経 常 収 益		249	257
経 常 費 用		5,558	5,729
資 金 調 達 費 用		193	202
(うち預金利息)		(166)	(175)
役 務 取 引 等 費 用		366	392
そ の 他 業 務 費 用		32	15
営 業 経 費		4,626	4,643
そ の 他 経 常 費 用		339	475
経 常 利 益		797	903
特 別 損 失		3	0
税引前中間純利益		794	902
法人税、住民税及び事業税		291	212
法人税等調整額		83	142
法人税等合計		375	354
中 間 純 利 益		418	548

中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

（単位：百万円）

	株 主 資 本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	繰上利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	8,000	5,759	5,759	2,724	7,400	1,583	11,708	△77	25,389
当中間期変動額									
剰余金の配当							△218	△218	△218
中間純利益							418	418	418
自己株式の取得									△0
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									△0
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	200	200	△0	200
当中間期末残高	8,000	5,759	5,759	2,724	7,400	1,784	11,908	△78	25,589

（単位：百万円）

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	4,125	2,116	6,242	72	31,704
当中間期変動額					
剰余金の配当					△218
中間純利益					418
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	172	—	172	42	214
当中間期変動額合計	172	—	172	42	414
当中間期末残高	4,298	2,116	6,414	114	32,119

当中間会計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

（単位：百万円）

	株 主 資 本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	繰上利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	8,000	5,759	5,759	2,724	7,400	2,021	12,145	△79	25,825
会計方針の変更による累積的影響額						277	277		277
会計方針の変更を反映した当期首残高	8,000	5,759	5,759	2,724	7,400	2,298	12,423	△79	26,103
当中間期変動額									
剰余金の配当							△155	△155	△155
中間純利益							548	548	548
自己株式の取得									△0
自己株式の処分							△27	△27	58
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									31
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	365	365	57	422
当中間期末残高	8,000	5,759	5,759	2,724	7,400	2,664	12,788	△21	26,525

（単位：百万円）

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	4,148	2,116	6,264	114	32,205
会計方針の変更による累積的影響額					277
会計方針の変更を反映した当期首残高	4,148	2,116	6,264	114	32,482
当中間期変動額					
剰余金の配当					△155
中間純利益					548
自己株式の取得					△0
自己株式の処分					31
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	873	—	873	14	888
当中間期変動額合計	873	—	873	14	1,311
当中間期末残高	5,021	2,116	7,138	129	33,793

注記事項

(重要な会計方針)

1. 商品有価証券の評価基準及び評価方法
 

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。
2. 有価証券の評価基準及び評価方法
 

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
 

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
4. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
 

有形固定資産の減価償却は、定率法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物：3年～50年  
その他：2年～20年
  - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
 

無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。
  - (3) リース資産
 

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
5. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金
 

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は3,070百万円であります。
  - (2) 退職給付引当金
 

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により損益処理  
数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日次事業年度から損益処理
  - (3) 偶発損失引当金
 

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
 

外貨建資産・負債は、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。
7. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項
  - (1) 退職給付に係る会計処理
 

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
  - (2) 消費税等の会計処理
 

消費税及び地方消費税（以下、「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

(会計方針の変更)

(「退職給付に関する会計基準」等の適用)  
 「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号平成24年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当中間会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当中間会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当中間会計期間の期首の退職給付引当金が428百万円減少し、繰越利益剰余金が277百万円増加しております。また、当中間会計期間の経常利益及び税引前中間純利益はそれぞれ9百万円増加しております。

なお、当中間会計期間の期首の1株当たり純資産額が4円45銭増加し、1株当たり中間純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額はそれぞれ10銭増加しております。

(中間貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式又は出資金の総額
 

株式	197百万円
出資金	30百万円
2. 貸出金のうち、破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。
 

破綻先債権額	234百万円
延滞債権額	14,792百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
3. 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は次のとおりであります。
 

3か月以上延滞債権額	72百万円
------------	-------

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。
 

貸出条件緩和債権額	1,523百万円
-----------	----------

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。
5. 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。
 

合計額	16,624百万円
-----	-----------

なお、上記2.から5.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
6. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。
 

9,090百万円
----------

7. 担保に供している資産は次のとおりであります。
- |            |           |
|------------|-----------|
| 担保に供している資産 |           |
| 預け金        | 0百万円      |
| 有価証券       | 31,448百万円 |
| その他の資産     | 27百万円     |
| 計          | 31,477百万円 |
- 担保資産に対応する債務
- |        |           |
|--------|-----------|
| 預金     | 3,320百万円  |
| コールマネー | 5,000百万円  |
| 借入金    | 13,900百万円 |
- 上記のほか、為替決済等の取引の担保として、次のものを差し入れております。
- |        |          |
|--------|----------|
| 有価証券   | 4,584百万円 |
| その他の資産 | 6百万円     |
- また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。
- |     |       |
|-----|-------|
| 保証金 | 92百万円 |
|-----|-------|
8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。
- |  |           |
|--|-----------|
| 融資未実行残高                                  | 44,547百万円 |
| うち原契約期間が1年以内のもの<br>(又は任意の時期に無条件で取消可能なもの) | 44,547百万円 |
- なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に(半年毎に)予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
9. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額 100百万円

**(中間損益計算書関係)**

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。
- |        |        |
|--------|--------|
| 株式等売却益 | 225百万円 |
|--------|--------|
2. 減価償却実施額は次のとおりであります。
- |        |        |
|--------|--------|
| 有形固定資産 | 216百万円 |
| 無形固定資産 | 266百万円 |
3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。
- |          |        |
|----------|--------|
| 貸出金償却    | 14百万円  |
| 貸倒引当金繰入額 | 325百万円 |
| 株式等売却損   | 38百万円  |

**(有価証券関係)**

子会社株式及び関連会社株式

	中間貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	—	—	—
合計	—	—	—

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の中間貸借対照表計上額

子会社株式	197百万円
関連会社株式	—
合計	197百万円

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。



## ● 損益の状況

### 業務粗利益

(単位：百万円)

		前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)			当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		
		収 益	費 用	収 支	収 益	費 用	収 支
資金運用収支	国内業務部門	4,415	182	4,232	4,497	195	4,301
	国際業務部門	202	22	180	157	18	139
合 計		(11)	(11)		(11)	(11)	
		4,606	193	4,412	4,643	202	4,440
役員取引等収支	国内業務部門	832	363	469	844	389	455
	国際業務部門	6	3	3	7	3	4
合 計		839	366	473	852	392	459
その他業務収支	国内業務部門	647	32	615	869	1	868
	国際業務部門	12	—	12	10	14	△3
合 計		660	32	627	880	15	864
業 務 粗 利 益	国内業務部門	5,316			5,624		
	国際業務部門	196			140		
合 計		5,513			5,765		
業 務 粗 利 益 率	国内業務部門	1.63%			1.68%		
	国際業務部門	1.29%			1.04%		
合 計		1.68%			1.71%		

- (注) 1. 国内業務部門は円建取引、国際業務部門は外貨建取引であります。※特定取引勘定については設置しておりません。  
 2. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。  
 3. 業務粗利益率 =  $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100 \times \frac{365\text{日}}{183\text{日}}$

### 資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

(単位：百万円)

		前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)			当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		
		国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資金運用勘定	平均残高	(29,094) 650,296	30,344	651,546	(24,790) 667,726	26,820	669,756
	利 息	(11) 4,415	202	4,606	(11) 4,497	157	4,643
	利 回 り	1.35%	1.33%	1.41%	1.34%	1.17%	1.38%
資金調達勘定	平均残高	633,247	(29,094) 30,429	634,582	657,764	(24,790) 26,926	659,900
	利 息	182	(11) 22	193	195	(11) 18	202
	利 回 り	0.05%	0.14%	0.06%	0.05%	0.13%	0.06%

- (注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（前中間会計期間406百万円、当中間会計期間8,784百万円）を控除して表示しております。  
 2. ( ) 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。  
 3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は月次カレント方式（前月末TT仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式）により算出しております。  
 4. 合計では、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息は、相殺して記載しております。

### 受取・支払利息の分析

(単位：百万円)

		前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)			当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		
		残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
国内業務部門	受取利息	147	△334	△187	117	△35	82
	支払利息	4	△31	△26	6	6	12
国際業務部門	受取利息	△27	29	2	△20	△24	△45
	支払利息	△2	6	4	△2	△2	△4
合 計	受取利息	155	△335	△179	125	△89	36
	支払利息	6	△22	△16	7	0	8

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めております。

役務取引の状況

(単位：百万円)

		前中間会計期間 (平成25年4月1日～ 平成25年9月30日)	当中間会計期間 (平成26年4月1日～ 平成26年9月30日)
役務取引等収益	国内業務部門	832	844
	国際業務部門	6	7
合 計		839	852
役務取引等費用	国内業務部門	363	389
	国際業務部門	3	3
合 計		366	392

業務純益

(単位：百万円)

前中間会計期間 (平成25年4月1日～ 平成25年9月30日)	当中間会計期間 (平成26年4月1日～ 平成26年9月30日)	前中間期比	増減率
919	1,094	175	19.04%

(注) 業務純益は、銀行の基本的な業務の成果を示す利益指標であります。具体的には預金・貸出金・有価証券などの利息収支である「資金利益」、各種手数料などの収支である「役務取引等利益」、債券や外国為替などの売買損益である「その他業務利益」の3項目を合計した「業務粗利益」から「営業経費」と「一般貸倒引当金繰入額」を控除して算出しております。

営業経費の内訳

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)	当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)
給 料 ・ 手 当	1,797	1,836
退 職 給 付 費 用	103	50
福 利 厚 生 費	23	28
減 価 償 却 費	541	483
土 地 建 物 機 械 賃 借 料	82	83
営 繕 費	10	9
消 耗 品 費	96	81
給 水 光 熱 費	48	51
旅 費	8	8
通 信 費	99	110
広 告 宣 伝 費	44	50
諸 会 費 ・ 寄 付 金 ・ 交 際 費	62	71
租 税 公 課	214	252
そ の 他	1,492	1,525
合 計	4,626	4,643

その他業務利益の内訳

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)			当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
外 国 為 替 売 買 損 益		12	12		10	10
商 品 有 価 証 券 売 買 損 益	△0	—	△0	0	—	0
国 債 等 債 券 売 却 損 益	615	—	615	772	△14	758
国 債 等 債 券 償 還 損 益	0	—	0	95	—	95
そ の 他 の 損 益	—	—	—	—	—	—
合 計	615	12	627	868	△3	864

● 預金

預金・譲渡性預金科目別残高（中間期末残高）

（単位：百万円）

		平成25年9月30日				平成26年9月30日			
		合計	構成比(%)	国内業務部門	国際業務部門	合計	構成比(%)	国内業務部門	国際業務部門
預 金	流動性預金	306,204	49.67	306,204	—	326,359	51.12	326,359	—
	うち有利息預金	238,849	38.74	238,849	—	252,902	39.61	252,902	—
	定期性預金	301,702	48.94	301,702	—	302,194	47.34	302,194	—
	うち固定金利定期預金	301,321	48.88	301,321	—	301,836	47.28	301,836	—
	うち変動金利定期預金	381	0.06	381	—	357	0.06	357	—
	その他	8,601	1.39	7,190	1,411	9,859	1.54	7,326	2,532
	合計	616,507	100.00	615,096	1,411	638,414	100.00	635,881	2,532
	譲渡性預金	6,368	—	6,368	—	9,576	—	9,576	—
	総合計	622,875	—	621,464	1,411	647,990	—	645,457	2,532

- (注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金  
 2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金  
   固定金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する定期預金  
   変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金  
 3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。  
 4. 以下、預金・譲渡性預金科目別残高（平均残高）についても同様であります。

預金・譲渡性預金科目別残高（平均残高）

（単位：百万円）

		前中間会計期間 （平成25年4月1日～平成25年9月30日）				当中間会計期間 （平成26年4月1日～平成26年9月30日）			
		合計	構成比(%)	国内業務部門	国際業務部門	合計	構成比(%)	国内業務部門	国際業務部門
預 金	流動性預金	306,371	50.13	306,371	—	328,117	51.72	328,117	—
	うち有利息預金	238,843	39.08	238,843	—	254,271	40.08	254,271	—
	定期性預金	301,627	49.35	301,627	—	302,325	47.65	302,325	—
	うち固定金利定期預金	301,241	49.29	301,241	—	301,961	47.59	301,961	—
	うち変動金利定期預金	386	0.06	386	—	363	0.06	363	—
	その他	3,147	0.52	1,813	1,334	4,017	0.63	1,883	2,134
	合計	611,146	100.00	609,812	1,334	634,460	100.00	632,325	2,134
	譲渡性預金	6,547	—	6,547	—	9,825	—	9,825	—
	総合計	617,694	—	616,360	1,334	644,286	—	642,151	2,134

定期預金の残存期間別残高

（単位：百万円）

種 類	期別	期間							
		3か月未満	3か月以上 6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上	合計	
定期預金	平成25年9月30日	74,690	64,134	113,853	23,026	14,972	6,344	297,022	
	平成26年9月30日	76,918	58,251	115,036	22,413	15,955	8,510	297,086	
うち固定 金利定期預金	平成25年9月30日	74,686	64,129	113,845	22,867	14,795	6,317	296,641	
	平成26年9月30日	76,910	58,215	114,930	22,255	15,927	8,488	296,728	
うち変動 金利定期預金	平成25年9月30日	4	5	7	159	176	26	381	
	平成26年9月30日	7	35	106	158	28	21	357	

(注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

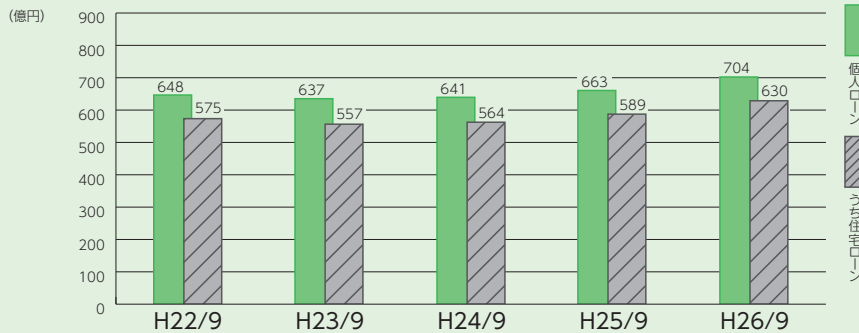
## ●貸出金

### 貸出金科目別残高（中間期末残高）

（単位：百万円）

	平成25年9月30日			平成26年9月30日		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
手形貸付	49,174	49,174	—	48,093	48,093	—
証書貸付	303,698	303,698	—	311,354	311,354	—
当座貸越	39,091	39,091	—	44,070	44,070	—
割引手形	9,386	9,386	—	9,090	9,090	—
合計	401,350	401,350	—	412,608	412,608	—

### 個人ローン・住宅ローン残高の推移



（注）残高は部分直接償却実施後の計数であります。

### 貸出金科目別残高（平均残高）

（単位：百万円）

	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)			当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
手形貸付	51,422	51,422	—	50,392	50,392	—
証書貸付	304,676	304,676	—	311,695	311,695	—
当座貸越	36,894	36,894	—	39,500	39,500	—
割引手形	10,084	10,084	—	9,866	9,866	—
合計	403,078	403,078	—	411,454	411,454	—

（注）国際業務部門の国内店外貸建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

### 貸出金の残存期間別残高

（単位：百万円）

種類	期別	期間						合計
		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超	期間の定め のないもの	
貸出金	平成25年9月30日	108,943	67,547	53,202	37,804	94,466	39,386	401,350
	平成26年9月30日	104,077	67,891	56,875	37,867	101,516	44,380	412,608
うち変動金利	平成25年9月30日		26,858	19,285	14,572	44,593	33,708	
	平成26年9月30日		26,318	20,027	14,287	48,175	38,851	
うち固定金利	平成25年9月30日		40,688	33,917	23,232	49,872	5,678	
	平成26年9月30日		41,572	36,848	23,580	53,341	5,529	

（注）残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

### 中小企業等に対する貸出金

（単位：百万円）

	総貸出金残高 (A)		中小企業等貸出金残高 (B)		$\frac{(B)}{(A)}$	
	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額
平成25年9月30日	15,666	401,350	15,604	360,588	99.60%	89.84%
平成26年9月30日	15,868	412,608	15,792	368,137	99.52%	89.22%

（注）中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

貸出金業種別内訳

(単位：百万円)

業 種	平成25年9月30日		平成26年9月30日	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
国内業務(除く特別国際金融取引勘定分)	401,350	100.00 %	412,608	100.00 %
製 造 業	39,961	9.96	38,984	9.45
農 業、林 業	931	0.23	848	0.21
漁 業	150	0.04	165	0.04
鉱業、採石業、砂利採取業	579	0.14	618	0.15
建 設 業	46,212	11.51	45,536	11.04
電気・ガス・熱供給・水道業	8,899	2.22	9,520	2.31
情 報 通 信 業	1,536	0.38	1,695	0.41
運 輸 業、郵 便 業	15,965	3.98	17,426	4.22
卸 売 業、小 売 業	47,024	11.71	44,730	10.84
金 融 業、保 険 業	8,218	2.05	6,728	1.63
不 動 産 業、物 品 賃 貸 業	83,671	20.85	91,905	22.27
各 種 サ ー ビ ス 業	61,925	15.43	60,479	14.66
地 方 公 共 団 体	13,339	3.32	16,725	4.05
そ の 他	72,932	18.18	77,242	18.72
国際業務及び特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政 府 等	—	—	—	—
金 融 機 関	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—
合 計	401,350	100.00	412,608	100.00

(注)「国内業務」とは、円建取引であります。「国際業務」とは、外貨建取引であります。

貸出金担保別内訳

(単位：百万円)

種 類	平成25年9月30日	平成26年9月30日
有 価 証 券	1,107	1,504
債 権	7,626	7,663
商 品	—	—
不 動 産	170,241	180,760
そ の 他	605	489
小 計	179,580	190,417
保 証	167,845	164,518
信 用	53,924	57,672
合 計	401,350	412,608
(うち劣後特約貸出金)	(51)	(51)

支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

種 類	平成25年9月30日	平成26年9月30日
有 価 証 券	35	52
債 権	6,648	6,592
商 品	—	—
不 動 産	1,199	1,047
そ の 他	—	—
小 計	7,883	7,692
保 証	783	635
信 用	93	117
合 計	8,760	8,446

貸出金使途別内訳

(単位：百万円)

	平成25年9月30日		平成26年9月30日	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設 備 資 金	179,798	44.80 %	191,658	46.45 %
運 転 資 金	221,552	55.20	220,950	53.55
合 計	401,350	100.00	412,608	100.00

貸倒引当金内訳

(単位：百万円)

	平成25年9月30日	平成26年9月30日	増減額
一 般 貸 倒 引 当 金	1,042	818	△224
個 別 貸 倒 引 当 金	2,238	2,328	90
特定海外債権引当勘定	—	—	—
合 計	3,281	3,146	△135

貸出金償却額

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)	当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)
貸 出 金 償 却 額	16	14

特定海外債権残高

該当ありません。

## ●不良債権の状況

### リスク管理債権額

(単位：百万円)

	平成25年9月30日	平成26年9月30日
破綻先債権額	377	234
延滞債権額	16,270	14,792
小計	16,648	15,027
3カ月以上延滞債権額	105	72
貸出条件緩和債権額	1,884	1,523
合計	18,639	16,624

- (注) 1.破綻先債権 法律上の整理手続開始の申立てがあった債務者ないしは手形交換所において取引停止処分を受けた債務者で、未収利息を収益不計上として  
いる貸出金です。
- 2.延滞債権 未収利息を収益不計上としていた貸出金で、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出  
金以外の貸出金です。
- 3.3カ月以上延滞債権 元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3カ月以上延滞している貸出金で、破綻先債権及び延滞債権に該当しないもので  
あります。
- 4.貸出条件緩和債権 経済的困難に陥った債務者の再建・支援を図り、当該債権の回収を促進することなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩（金利の減免、  
利息の支払猶予、元金の返済猶予、債権放棄など）を実施した貸出金で破綻先債権、延滞債権、3カ月以上延滞債権に該当しないもので  
あります。

### 金融再生法に基づく開示基準ベース

(単位：百万円)

	破産更生債権及びこれらに準ずる債権		危険債権		要管理債権		小計		正常債権		合計	
	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成25年9月30日	平成26年9月30日
債権額 (a)	2,080	1,737	14,579	13,316	1,990	1,596	18,650	16,650	391,801	404,700	410,452	421,350
担保等保全額 (b)	1,706	1,385	9,709	9,046	683	659	12,100	11,092	225,879	226,244	237,979	237,336
未保全額 (a)-(b)	373	351	4,869	4,269	1,306	937	6,550	5,558	165,922	178,456	172,472	184,014
引当額	373	351	1,842	1,955	85	148	2,301	2,454	957	670	3,259	3,124
引当率 %	100.00	100.00	37.84	45.79	6.52	15.80	35.14	44.16	0.57	0.37	1.88	1.69

- (注) 1.破産更生債権及びこれらに準ずる債権 破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権で  
す。
- 2.危険債権 債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない  
可能性の高い債権です。
- 3.要管理債権 3カ月以上延滞債権（「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」に該当する債権を除く）及び貸出条件緩和債権（「破産  
更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」に該当する債権ならびに「3カ月以上延滞債権」を除く）です。
- 4.正常債権 債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記1.から3.までに掲げる債権以外のものに区分される債権のことで  
す。

### 自己査定による債務者別分類の状況

(単位：百万円)

	破綻先債権		実質破綻先債権		破綻懸念先債権		合計	
	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成25年9月30日	平成26年9月30日	平成25年9月30日	平成26年9月30日
債権額 (a)	380	250	1,700	1,486	14,579	13,316	16,660	15,053
担保等保全額 (b)	354	212	1,351	1,173	9,709	9,046	11,416	10,432
未保全額 (a)-(b)	25	37	348	313	4,869	4,269	5,243	4,620
引当額	25	37	348	313	1,842	1,955	2,216	2,306
引当率 %	100.00	100.00	100.00	100.00	37.84	45.79	42.27	49.91

- (注) 1.破綻先債権 法的・形式的な経営破綻の事実が発生している先（破産、清算、会社整理、会社更生、民事再生、手形交換所の取引停止処分等の事由によ  
り経営破綻に陥っている債務者）に対する債権です。
- 2.実質破綻先債権 法的・形式的な経営破綻の事実が発生していないものの、深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しが不明瞭な状況にあると認められるなど実  
質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権です。
- 3.破綻懸念先債権 現状、経営破綻の状況にはないが、経営難の状態にあり、経営改善計画等の進捗状況が芳しくなく、今後、経営破綻に陥る可能性が大  
きいと認められる債務者に対する債権です。

## 証券業務

### 保有有価証券残高（中間期末残高）

（単位：百万円）

	平成25年9月30日			平成26年9月30日		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
国債	114,710 ( 47.94)	114,710	—	109,724 ( 42.96)	109,724	—
地方債	15,989 ( 6.68)	15,989	—	22,031 ( 8.62)	22,031	—
社債	64,132 ( 26.81)	64,132	—	63,501 ( 24.86)	63,501	—
株式	13,274 ( 5.55)	13,274	—	14,272 ( 5.59)	14,272	—
その他の証券	31,152 ( 13.02)	4,291	26,861	45,891 ( 17.97)	21,642	24,249
うち外国債券	26,861		26,861	24,249		24,249
うち外国株式	—		—	—		—
合計	239,260 (100.00)	212,398	26,861	255,421 (100.00)	231,172	24,249

（注）（ ）内は構成比%

### 保有有価証券残高（平均残高）

（単位：百万円）

	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)			当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
国債	112,373 ( 49.97)	112,373	—	112,539 ( 45.15)	112,539	—
地方債	13,322 ( 5.93)	13,322	—	21,821 ( 8.75)	21,821	—
短期社債	245 ( 0.11)	245	—	—	—	—
社債	58,829 ( 26.16)	58,829	—	64,384 ( 25.83)	64,384	—
株式	7,897 ( 3.51)	7,897	—	9,687 ( 3.89)	9,687	—
その他の証券	32,201 ( 14.32)	3,246	28,955	40,835 ( 16.38)	16,187	24,647
うち外国債券	28,955		28,955	24,647		24,647
うち外国株式	—		—	—		—
合計	224,870 (100.00)	195,914	28,955	249,269 (100.00)	224,621	24,647

（注）（ ）内は構成比%

### 有価証券の残存期間別残高

（平成25年9月30日現在）

（単位：百万円）

種類	期間	期間						期間の定めのないもの	合計
		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超		
国債		23,581	5,528	15,074	9,391	54,215	6,919	—	114,710
地方債		1,757	3,888	2,962	2,553	4,827	—	—	15,989
社債		8,670	22,999	15,637	10,071	6,753	—	—	64,132
株式								13,274	13,274
その他の証券		4,498	11,228	7,948	1,312	38	512	5,615	31,152
うち外国債券		4,498	11,198	7,948	1,293	—	388	1,534	26,861
うち外国株式								—	—

（平成26年9月30日現在）

（単位：百万円）

種類	期間	期間						期間の定めのないもの	合計
		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超		
国債		5,005	15,077	26,200	32,695	26,064	4,681	—	109,724
地方債		1,389	4,344	3,498	7,450	5,286	62	—	22,031
社債		8,826	23,532	14,924	11,907	4,311	—	—	63,501
株式								14,272	14,272
その他の証券		7,126	10,740	2,809	1,519	14,450	453	8,791	45,891
うち外国債券		7,113	10,740	2,809	1,502	196	299	1,587	24,249
うち外国株式								—	—

### 商品有価証券平均残高

（単位：百万円）

	前中間会計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)		当中間会計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)	
商品国債		41		141
商品地方債		124		124
商品政府保証債		—		—
その他の商品有価証券		—		—
合計		166		266



## ● 有価証券の時価等情報

### 有価証券関係

#### 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

種類	期別	平成25年9月30日			平成26年9月30日		
		中間貸借対照表計上額	時価	差額	中間貸借対照表計上額	時価	差額
時価が中間貸借対照表計上額を超えないもの	社債	150	149	△ 0	100	100	—
	小計	150	149	△ 0	100	100	—
合	計	150	149	△ 0	100	100	—

#### 子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

種類	期別	平成25年9月30日			平成26年9月30日		
		中間貸借対照表計上額	時価	差額	中間貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式		—	—	—	—	—	—
関連会社株式		—	—	—	—	—	—
合	計	—	—	—	—	—	—

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

種類	期別	平成25年9月30日		平成26年9月30日	
		中間貸借対照表計上額	時価	中間貸借対照表計上額	時価
子会社株式		40	—	197	—
関連会社株式		—	—	—	—
合	計	40	—	197	—

(注) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

#### その他有価証券

(単位：百万円)

種類	期別	平成25年9月30日			平成26年9月30日		
		中間貸借対照表計上額	取得原価	差額	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	10,142	4,948	5,193	10,249	5,461	4,788
	債券	176,842	175,611	1,231	189,367	187,515	1,852
	国債	106,741	106,034	707	107,718	106,612	1,106
	地方債	11,867	11,825	42	22,031	21,804	227
	社債	58,232	57,751	481	59,617	59,097	519
	外国証券	16,520	16,025	494	16,451	16,098	352
	その他	3,890	3,430	460	20,117	19,104	1,013
	小計	207,395	200,015	7,379	236,186	228,179	8,006
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	2,427	2,849	△ 421	3,045	3,275	△ 230
	債券	17,840	17,971	△ 131	5,789	5,800	△ 10
	国債	7,969	8,050	△ 80	2,005	2,005	△ 0
	地方債	4,121	4,132	△ 10	—	—	—
	社債	5,749	5,788	△ 39	3,784	3,794	△ 10
	外国証券	10,341	10,547	△ 206	7,798	7,881	△ 83
	その他	401	420	△ 19	1,525	1,539	△ 14
	小計	31,010	31,789	△ 779	18,158	18,497	△ 338
合	計	238,405	231,805	6,600	254,345	246,677	7,667

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

株	式	平成25年9月30日		平成26年9月30日	
		中間貸借対照表計上額	時価	中間貸借対照表計上額	時価
株	式	664	—	779	—
合	計	664	—	779	—

(注) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

**減損処理を行った有価証券**

有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。

前中間会計期間における減損処理額は、株式1百万円であります。

当中間会計期間における減損処理額は、該当ありません。

なお、当該有価証券の減損処理については、中間会計期間末日の時価が取得原価に比べて50%以上下落した銘柄は一律減損処理するとともに、30%以上50%未満下落した銘柄は種類ごとに回復可能性を判断する基準を設け、この基準により減損処理の要否の検討を実施しております。

● **金銭の信託の時価等情報**

満期保有目的の金銭の信託                      該当ありません。

その他の金銭の信託                                      該当ありません。

● **その他有価証券評価差額金**

中間貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

種 類	期 別	平成25年9月30日	平成26年9月30日
評 価 差 額		6,600	7,667
	その他有価証券	6,600	7,667
(△) 繰延税金負債		2,302	2,645
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		4,298	5,021

## ●デリバティブ取引情報

### 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引…該当ありません。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成25年9月30日				平成26年9月30日			
		契約額等		時価	評価損益	契約額等		時価	評価損益
		うち1年超				うち1年超			
金融商品取引所	通貨先物	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨先物	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—	—	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨スワップ	170	—	1	1	11	—	△0	△0
	通貨オプション	169	—	△0	△0	11	—	0	0
	通貨オプション	840	—	86	86	1,833	—	35	35
	通貨オプション	840	—	△86	△86	1,833	—	△35	△35
	合計			0	0			0	0

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定  
割引|現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引…該当ありません。

(4) 債券関連取引…該当ありません。

(5) 商品関連取引…該当ありません。

(6) クレジットデリバティブ取引…該当ありません。

### 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

## ●株式の状況

当行の平成26年9月末現在の発行済株式総数は62,490,200株で、2,858名（単元未満株式所有者549名を含む）の株主の方がたに保有いただいております。株主の所有者別構成は個人株主のウエートが高く、地域別構成（株式数）では福岡県内が61.18%となっております。これは、地域金融機関として地域の皆様のお役に立つ銀行をめざす当行の経営姿勢が、地域の方がたから幅広いご支持をいただいている結果だと考えております。

### 大株主（上位10位）

（平成26年9月30日現在）

氏名又は名称	住 所	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
筑邦銀行従業員持株会	福岡県久留米市諏訪野町2456番地の1	2,518 千株	4.02 %
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4）	東京都中央区晴海一丁目8番11号	2,003	3.20
株式会社佐賀銀行	佐賀県佐賀市唐人二丁目7番20号	1,752	2.80
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 九州電力口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟	1,613	2.58
株式会社十八銀行	長崎県長崎市銅座町1番11号	1,589	2.54
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	1,424	2.27
久光製薬株式会社	佐賀県鳥栖市田代大官町408番地	1,408	2.25
西日本鉄道株式会社	福岡県福岡市中央区天神一丁目11番17号	1,366	2.18
株式会社安川電機	福岡県北九州市八幡西区黒崎城石2番1号	1,366	2.18
株式会社西日本シティ銀行	福岡県福岡市博多区博多駅前三丁目1番1号	1,338	2.14
計	—	16,378	26.21

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

### 所有者別状況

（平成26年9月30日現在）

区 分	株式の状況（1単元の株式数1,000株）							単元未満 株式の状況	
	政府及び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数	1 人	31	5	614	—	—	1,658	2,309	—
所有株式数	34 単元	18,512	355	27,696	—	—	15,449	62,046	444,200 株
割合	0.05 %	29.84	0.57	44.64	—	—	24.90	100.00	—

(注) 1. 自己株式57,375株は「個人その他」に57単元、「単元未満株式の状況」に375株含まれております。  
2. 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が4単元含まれております。

### 株式の地域別分布状況（株式数）

（平成26年9月30日現在）

0	100%	
福岡県 61.18%	16.15%	その他 22.67%
九州・沖縄（福岡県を除く）		

### 配当政策

当行は、銀行業としての公共性に鑑み、長期的に安定した経営基盤の確保や経営環境の変化へ対応するための自己資本の充実などに努めております。剰余金の配当につきましては、安定した配当の継続を基本方針とし、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこととしております。この方針に基づき、当期の中間配当につきましては、昨年と同様に1株につき2円50銭としております。

### 資本金の推移

（単位：億円）

	昭和51年4月	昭和56年4月	昭和62年10月	平成4年3月	平成9年4月	平成11年12月
資本金	8	12	22	30	45	80